

8月号

ハニ養だより



青森県立八戸第二養護学校

令和8年7月23日

「スポーツが育む、かけがえのない経験と自信」

校長 西里 俊文

7月1日（水）、令和8年度第6回青森県特別支援学校総合スポーツ大会が、青森市の新青森県総合運動公園で開催されました。本校中学部からは2・3年生が選手として出場し、1年生は応援で参加しました。

中学部ではこの大会に向け、保健体育の授業を中心に陸上競技やフライングディスクの練習に励んできました。競技の練習はもちろん、応援グッズ作りや応援団の練習など、生徒たちはそれぞれの役割に一生懸命取り組んで当日を迎えました。

当日、私はサッカー競技の委員長として運営にあたっていたため、残念ながら本校の生徒たちの雄姿を直接見ることは叶いませんでした。しかし、立派な会場で競技することは、生徒たちにとって「甲子園」に出場するのと同じくらい、大きな自信につながるものだと感じています。スポーツの楽しさ、仲間とプレーする喜び、そして競技を通して味わう達成感や悔しさ——これらは、大会という大舞台に挑戦したからこそ得られる、何ものにも代えがたい貴重な経験です。

大会後、記録写真や引率職員からの報告、そして帰ってきた生徒たち自身の口から話を聞く中で、誰もが自信に満ちた表情をしているのがとても印象的でした。

今年の10月には、青の煌めきあおもり障スポ（第25回全国障がい者スポーツ大会）が青森県で開催されます。これからも、体を動かす楽しさや仲間との出会いといった「スポーツの持つ力」を子どもたちが肌で感じていけるよう、私たち教職員も一緒に楽しみながら指導にあたってまいります。

